



# トヨタ看護 学校だより

発行  
トヨタ自動車株式会社  
トヨタ看護専門学校  
発行人 辻 秀樹  
編集人 鎌田 浩也

## 入学式を終えて ～私の心構え～

1学年（31期生） 松本 梓



春爛漫、これから始まる看護学生としての生活に期待と不安を感じながらも、私は三十一期生としてこのトヨタ看護専門学校に入学しました。

入学式当日の朝、鏡に映る、まだ見慣れないスーツ姿の自分は、背伸びをしているようで、なんだか少し照



れくさい気持ちになったのを覚えていません。これから新しい環境で、新しい仲間と共に過ごしていくことに浮かれながら、私は誰よりも早く学校に着きました。教室に案内され、まず目にしたものは、数えきれないほど机に積まれた教科書でした。その教科書一冊一冊に目を通すと、解剖生理学、病理学、微生物学、薬理学など難しそうなものばかりで、三年間で

この全てを頭に入れることが自分にできるのかと不安が募りました。そうしたことを考えている間に、先程まで一人寂しかった教室に一人、また一人とクラスメイトの姿が見え始めました。新しい出会いに緊張しながらも、やはり心の中ではこれからの学校生活に対する期待が膨らんでいました。

入学式では、先輩方や先生方、来賓の方々そしていつも自分を支えてくれている両親に溢れんばかりの拍手で迎えられ、改めてこの学校の生徒になったことを実感し

ました。そしてそれと同時に、看護師になりたいという夢に一步近づいたことへの嬉しさが胸にこみあげ、今後もこの日のことを忘れず、何事にも全力で取り組み、一生懸命努力していこうと思えました。



入学してから早一か月が過ぎ、少しずつ学校生活にも慣れてきたと感じています。私が一番不安に感じていた看護の基本となる解剖生理学の講

義では、今までに聞いたことのない専門用語がたくさん使われており、ついていけなくなってしまうことも何度かありました。それでも、分からない箇所は分からないままにせず、質問をしたり調べたりするなどして解決するようにしています。それがきっと、これから私が看護師になるにあたって大切なことであると思うからです。

そして五月から、私たちにとって初めての演習が始まりました。普段の講義や課題に合わせ、演習も始まるとなると今まで以上に勉強をし、尚且つ時間を有効的に使い、無駄のない行動をしなければなりません。忙しい毎日ですが、将来、不安な気持ちを抱

えておられる患者様やそのご家族に寄り添える理想の看護師になる為にも、今ここで正しい知識や技術をしっかりと身につけ、普段の学校生活の中でもコミュニケーション能力や人間性を高めていくことが必要であると感じています。

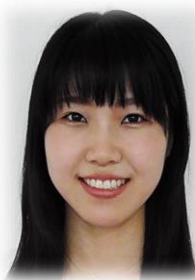


三年後、立派な看護師になっていられるように、今の時間を十分大切にし、仲間と励ましあいながら様々な事を乗り越え頑張っていきたいと思えます。



## トヨタ看護専門学校 入学式

四月二十八日、交流会があり、先生方と学生全員で星ヶ丘ポウルと東山動植物園に行ってきました。各学年と教員が交流を深めることを目的にした一年に一度行われる教科外活動です。私は、一年生から毎年この交流会を楽しみに



交流会に参加して

「ボウリング・東山動植物園」  
3学年（29期生） 酒々井 泉



していました。今回は学生生活最後の交流会です。私のグループは、教員一名、三年生二名、二年生四名、一年生四名の計十一名でした。メンバーは、交流会の係が担当して決めることになっており、誰と同じグループになるのかワクワクし、決定されるまでの時間も楽しみのひとつでした。しかし今回は三年生であることから、後輩たちを楽しませることが出来るのか、不安もありました。

当日は、日頃あまり会話をしていないメンバーばかりでしたが、ボウリングが始まるとそれぞれの個性が出て、ストライクが続いた時は大はしゃぎでした。とても楽しい雰囲気の中、点数を

気にせず、ゲームを楽しむことができ、いつものボウリングとは一味違った雰囲気です。盛り上がりました。

その後、メンバー全員で東山動物園に移動しました。ここでは普段あまり見ることのない動物を選んで観察し、感動したり写真を撮ったりと、十一人の気持ちがひとつになっていきました。

そして、この交流会は、それぞれが抱える悩みや不安を聞き合える時間でもありません。質問や相談の多くが三年生へ向けられ、改めて最高学年という立場を実感しました。学年によってそれぞれの悩みは異なり、私は当時の自分を思い起こしながら後輩の気持ちを汲み、不安を和らげようとして

いました。

私も、前回の交流会では自分の悩みや不安を聞いてもらい、先輩からアドバイスを頂きました。それは、とても心強くそのお陰でこれまで頑張ることができました。今回は、その経験を生かし同じ思いを抱える後輩にアドバイスをできる貴重な時間であると意識し、一日を大切に過ごすことができました。

そして、もう一つ、普段、先生方と話をするのは実習や授業の指導、助言を頂く時だけですが、交流会では朝から一緒にボウリングをしたり、食事をしたたり、長い時間を共有し、私の知らないことがあり、先生の一面を見ることができ、とても新鮮な気持ちに

なりました。先生とのいつもとは違った会話の広がりや、学校の中だけでは出来ない人間関係を築くきっかけとなりました。

今回の交流会では、たくさんのお話を聞けました。看護師になるためのコミュニケーションの大切さを改めて学び、そして自分の成長に生かし、また活力となるよう残りの学生生活を頑張りたいと思います。





## ボランティア活動に触れて

1学年(31期生)

古市 亜海



四月十一日、ボランティア活動についての講義を受けて今まで私が抱いていたボランティアの概念を覆されました。まず「福祉」の言葉の意味が『しあわせ』だと学びました。「福」が『しあわせ』というイメージは元々ありましたが、「社」も『しあ

わせ』の意味を持つている事は知りませんでした。

次に「ふくし」は「ふだんのくらしのしあわせ」の頭文字を取ったもの、ということとを学んだのですが、障害のある人もない人も皆が「ふだんのからしのしあわせ」を感じられているのか、というところに視点を置いて皆で話し合いました。

ボランティアといえば「お金や時間に余裕のある人がすること」、「被災地の復興支援活動」などのイメージを抱いている人が多いと思います。しかしそれだけがボランティアというわけではありません。種類も様々で物品、金銭(募金)、技術による支援、家庭で、地域で、学校

で、職場で、海外でもボランティア活動はできます。そして、ボランティア活動に参加する時は、わざわざ申し込み手続きをしなればならないイメージがあるかもしれませんが、申し込みをしなくても、身体の不自由な方に席を譲るなど、日常生活のちょっとした手助けがボランティアへの第一歩になるのです。ボランティアは「思いやりの気持ち」「簡単な手助け」を基本としていて、大それたことではなくてもほんの少しの思いやりの気持ちがあればボランティアにつながれることは新鮮見でした。

ボランティアには五原則があるという事も学びました。自発性、公共性、無償性、

継続性、開拓性の五つです。自分から進んで行うこと、分け隔てなく活動すること、見返り(お金・物)を求めないこと、無理のない範囲で続けて活動すること、ニーズに合わせて活動すること。これらが大事になってくるのですが、私は今まで様々なボランティア活動に参加してきて、少なからず見返りを求めていた気がします。そのような気持ちでボランティア活動に参加してはいけないということを学びました。ボランティアには決まったルールはありませんが、「自分がやりたいようにやればいい」という自己満足ではないことを、ボランティア活動をするうえで皆に知っておいてほし

いと思いました。良かれと思ってやった事が実は裏目に出ってしまったりすることがあります。それは「ボランティアの押し売り」です。つまりニーズに合わせて活動することが大切になってくるのだなと思いました。

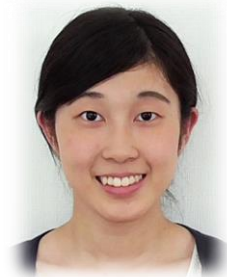


今回ボランティア活動について学び、私が抱いていたボランティアの概念とは、また違ったことを知ることができました。そして、「支え合い」や「今、何が必要なのか」を考えて行動すること、そして観察力も必要になってくることから、看護に通ずるものがあると感じました。助け上手・助けられ上手の気持ちを忘れずに、これから看護を学んでいきたいと思っています。



### 感動した「灯火のリレー」

2学年（30期生） 川内 桃花



四月二十日、厳かで神聖な空気の中、私達第三十期生は灯火のリレーに参加しました。私は昨年の四月、灯火のリレーを見学させていただき、先輩方のまっすぐな姿勢、扇型に灯火がだんだ

んと広がっていく光景を、とても幻想的に感じ、「来年私も灯火を受け取れるようになりたい」と強く思いました。そして今年、憧れていたその場に立ち灯火を受け取ることができ、嬉しく思うと同時に自分がその立場となりとても緊張しました。

体育館の照明が落とされ、静まりかえった空気の中、ナイチンゲール像に灯火が点灯されました。先輩方がナイチンゲール像から灯火を受け取り、私達の前に立ちました。私は列の先頭に並んでおり、三年生の方と向き合う瞬間、とても立派に感じ、このような方々から灯火を受け取ることができ、とても光栄に思いました。いよいよ、灯火

を三年生から二年生へと受け継ぐ時です。燭台を傾け灯火を受け継ぎ、後ろに並んだ学生へと渡していき、私達全員に灯火が行き渡り輝いていることが分かりました。灯火の輝きと温かさを感じている間、この学校に入学してからの1年間を思い出していました。



座学では今までに学んだことのない科目が多く、新しく覚える事がたくさんありました。演習では看護技術習得のため、クラスの間とともに毎日練習に励み、辛い事も、楽しい事も、様々な事をともに乗り越

えて来ました。そしてあつという間に月日は去り、一年生の集大成ともいえる基礎看護学Ⅰ期実習を迎えました。初めて患者様を受け持たせていただき、不安で胸がいっぱいでした。実習中は私が想像していた以上に大変で、毎日大量の課題と向き合ながら、コミュニケーションの取り方や、個別性を意識した援助など、不慣れな点が多々あり、どうしたらよいか悩みました。五日間と短い期間ではありましたがチームで動くことの大切さや患者様との関わり方など、学ぶことは多く、この実習で大きく成長することができました。

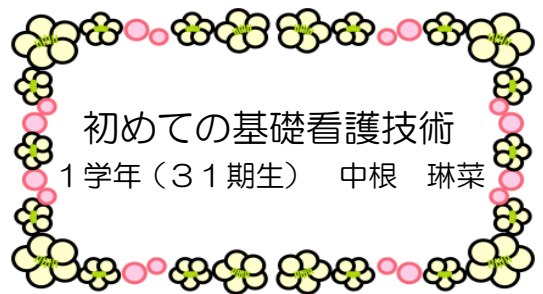
二年生になり、七月には基礎看護学Ⅱ期実習があります。一年

次で学んだ事に加え、二年次から新しく行う事も多くとても不安です。しかし看護としてできることが増えるので、再び大きく成長できる機会だと感じています。

入学したばかりの頃は看護とはどういう事なのかわかりませんでした。しかし、今では前よりも具体的に捉えることが出来るようになり、看護師に一步ずつ近づいているのが実感できます。そして、この実習を通し、看護とは何か、より深めていけたらよいと思います。

灯火のリレーの際、三年生の方から励ましの言葉をいただきました。その中に「灯火は大きくなる時もある」と仰っています。

した。これから、多くのことで心の灯火が揺らぐことがあると思います。しかし、灯火のリレーで看護への意欲を高めた仲間とともに励まし合い、乗り越えていきたいと思えます。そして来年の灯火のリレーでは、灯火を受け渡す立場として恥じることはないよう、日々精進していききたいと思えます。



初めての基礎看護技術  
1学年(31期生) 中根 琳菜



トヨタ看護専門学校に入学して約二ヶ月が経ち、私たちは患者様が入院される前のベッドを作成するベッドメイキングの練習が始まりました。なぜベッドメイキングを最初に練習しないといけないのだろうか、と始めはな

なか看護技術の練習という実感が湧かなかったのが正直な思いです。しかし、基礎看護学で患者様を事故や感染から守ること、寝心地のよいベッドを作ること、人間としての尊厳を守る環境を作ることなどが看護師の役割であると知り、それらを達成するベッドを作成できるように練習に取り組みました。

練習は主に早朝、昼休憩、放課後に実施しました。先生は簡単にシーツを入れ込んでいたように見えましたが、実際はなかなかシーツを張ることができず苦労しました。ベッドの数も限られているので、友人が練習している姿を見て学ぶところも多く、アドバイスをする日々

が続きました。友人の上達が速く、焦りを感じる時期もありましたが、やはり近くで見ている友人からの助言は的確なものばかりで、一人の学びではなく皆で学んで、練習しているという実感が強くなっていきました。苦手だった早起きを続けて毎日練習に行くことができたのも、励まし合える仲間がいたからだと思います。



練習をしていく中で、様々な発見がありました。どこを手で押さえればシーツが崩れないか、どこに布団を置けばきれいに包布に入れられるのかなどがわかってきたときには、技術を習得していることを強く体感しました。また効率のよい作業を目指すのは、テストの制限時間に間に合わせるためではなく、丁寧かつ素早く援助を終えることで患者様の負担を減らし、状況に合わせた援助をすることに繋げるためです。また、物品を清潔に扱うことも技術に含まれています。ベッドをきれいに仕上げるだけでなく、作業する順番が清潔に関わっていることを学びました。普段の生活では、

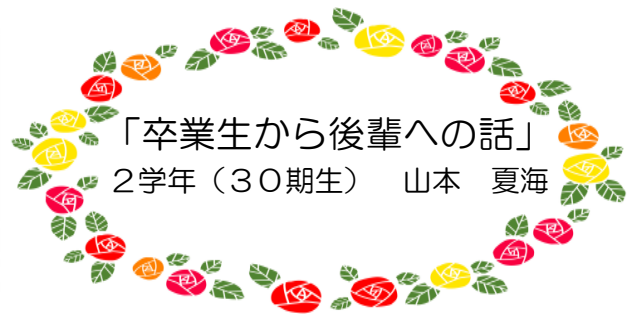
掃除をどこから始めるかなど全く意識していませんでしたが、免疫力が低下し、自身の治療に集中しなければいけない状況にある患者様を使用するベッドには、そういった配慮が必要不可欠です。始めは機械的に順番を覚えて物品を拭いていましたが、

それではいけないと思います、患者様がどこを触る可能性があるか、どこを一番清潔にしなければいけないかを考えながら作業するように努めました。一つ一つの作業が、何故行うのか、どのように行わなければならないのか、自然と意識できるまでに時間がかかりました。実際に病院で援助を行うときは、患者様が横で生活している中で実施

しなければいけません。基礎看護実習室とは違い、物品一つ一つへの細かい配慮が必要になります。

初めての技術練習で学んだ事を、これからの技術練習でも積み上げ、自分のものにしていきたいと思えます。そのための努力は怠ることなく、患者様の近くで療養生活を支える立場として、日常生活でも精神面でも最善の援助ができる看護師を目指します。





六月二十三日、教科外活動の一環として、トヨタ記念病院に就職された卒業生の方に特別講義をしていただきました。事前に講義の内容についてアンケートを受け、クラス全員で聞きたい

ことについて話し合いました。そこには学生時代の勉強の仕方、や実習について、国家試験のことや就職してからのことなどが挙がっていました。当日は私たちが希望した内容に添って丁寧に講義を行ってくださり、看護師になるために気になっていたり、様々なことについて、具体的なお話を聞くことのできる良い機会となりました。

学生時代の勉強方法について、授業などで分からないことがあったときは、そのままにしないで先生に聞き、早く理解しておくことが大切であると教わりました。私は今まで、分からないことがあってもその場では質問せず、テスト前、友人に確認するく

らいで良いと思っていました。しかし、正しい知識を身に着け、復習をするためには授業後、なるべく早く解決しておく必要があると感じました。また、課題の取り組み方について、早く取り掛かり、いつまでに修正し、いつまでに提出するかを考え、早めに取り組むのが良いと教えていただきました。学生の時は課題を期限までに提出できないことは、自分にかかる負担と責任だけではなく、社会に出たらそのことが職場の人、患者様に迷惑がかかり、信頼を失うことにつながるかと教えていただきました。「できませんでした。」で済むのは学生の時だけであると学びました。そして学習の方法や課



題の取り組み方を今一度考え、将来のことを考えながら自身にあった方法を見つけ、より良い学習ができるようにしたいと思いました。

実習についてのお話では、つらいこともあるけれど、よかったと思えることがたくさんあるということでした。患者様に名前を憶えてもらえるこ

とや、「ありがとう。」という一言に支えられているというお話を聞き、私自身も基礎看護学「1期実習のこと」を思い出しました。援助をした後にお礼の言葉を頂いたり、私たちがちょっとしたことでも笑顔になられたりしている姿を見ると、とても嬉しく感じ、それまで大変に感じていた実習もやりのあるものになりました。看護師は患者様を支える立場であるけれど、看護師もまた患者様に支えられているのだと理解する事ができました。





国家試験については、1年生からの学習がとても大切であるということや、実習で見たり、学んだりしたことが出題されることがあるということでした。そのため、

日頃の学習や実習のときから国家試験について意識し、考えながら取り組む必要があることが分かりました。また、時間をかけた勉強が重要なだけでなく、何を、どれだけ確実に身に付けることができたのかが重要であるということを教えられ、長い時間学習することに満足せず、学習の質を上げられるようにしたいと思いました。

看護師という仕事

については、人間関係を築く必要性、命と向き合う仕事であると

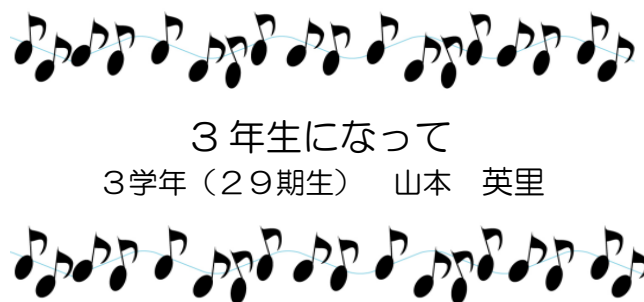
いうお話をされました。看護というのはチームで行われ、チームの人間関係を築くことがより良い看護につながるということでした。



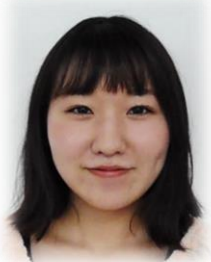
また、卒業後も同じ職場で働く友人が支えになっていたり、うお話を聞き、現在同じ夢に向かってる友人の存在がとても頼もしく感じました。

今回卒業生の方から講義を受け、看護師は人を支え、人に支えられる職業であるということ改めて実

感じました。その夢に向かってる途中は、つらいことも多く、困難にぶつかることもありますが、今回聞きした話を思い出し、支えとなってくれる友人や先生方と共に乗り越える努力をしたいと思えます。乗り越えた後に、命と向き合う仕事である理想の看護師になれるよう、日々の学習や実習に取り組みたいと思いました。



3年生になって  
3学年(29期生) 山本 英里



トヨタ看護専門学校に入学して、早いもので二年余りが経過しました。今までの学校生活を思い返すと講義では知らない言葉ばかりでついていくのに必死だったことや、自身の学習不足

を目の当たりにし不安になったこともあり、辛いことも多くありました。しかし、その中でもクラスメイトで支えあったことや、患者様と関わらせていただく中で患者様からの感謝の言葉を掛けていただけた時や、どんどん回復される姿を見ることができた時は、看護師という仕事の魅力や感動を実感することができました。

専門領域実習が始まり、私は一クール目に終末期の患者様を受け持たせていただきました。終末期であることから身体的・精神的な苦痛も大きく、援助方法やコミュニケーションの難しさをとて感じました。しかし、先生方や指導者さんの助言、メンバ

1からの意見を聞き、その助言を活かしながら成長することが出来たと思っています。また、看護師は患者様の回復過程を看るだけでなく終末期である患者様とも関わることもあることから、技術の工夫や患者様の背景を汲み取る多くの知識が必要であることを実感しました。

三年生は患者様と関わらせていただく機会が多くあります。今までの実習で学んだことを患者様と接する時間に活かしながら、学び成長できるように取り組んでいきたいと思っています。

十二月までの専門領域実習が終わると、すぐに看護師になるための最終段階である「国家試験」が待つ

ています。私は、模試の点数が取れず自分が本当に合格できるのかとても不安になります。今まで学んだ解剖生理や疾患の勉強が本当に大切であることを、模試を解き実感しています。模試で間違えた問題や分からぬ問題はしっかり見直しをして確実に点数が取れるように勉強に励んでいきたいです。



入学した当時は看護学生としての三年間はとても長い時間だろうと感じていました。しかし時間が過ぎるのはとても早く、

あっという間に三年生になってしまいました。以前まではなかなか想像出来なかった看護師として働く姿が、今では少しずつ実感してきています。国家試験はあくまで通過点であるため、絶対に合格し患者様とその家族に寄り添い多くの方々を支えられるよう、これからの専門領域実習や学業をクラス全員で頑張っ取り組んでいきたいと思っています。



## 新任職員 挨拶



佐野 副校長

四月より赴任いたしました。学校で皆さんと会えるのは週二日ですが、後の三日間は実習場所のトヨタ記念病院で勤務しています。私はこれまで呼吸器センター、心臓病センターで看護を行って参りました。看護師としての知識、技術はもちろんです。患者さまや家族の方

々の気持ちを察し、支える看護について多くのことを学びました。

皆さんが学生生活の中で看護の学習はもちろんです、自立した人として成長できる三年間となるよう環境を整えるのが私の役割です。看護のすばらしさを伝えると共に、夢に向かって学ぶ皆さんの応援をしたいと思えます。よろしくお願ひします。



木村 先生



こんにちは。今年度四月より赴任しました木村です。担当教科は母性看護学です。十数年前にトヨタ記念

病院産婦人科病棟で助産師として勤務した後、地域での活動にも興味があり、クリニックや市の新生児訪問、地域での助産師サークルの活動を行っていました。専任教員の仕事は今回が初めてなので、日々勉強し、知識や情報を整理しています。学生の皆さん、一緒に頑張りましょう。母性看護学は特殊な領域なので苦手と思うかもしれませんが、自分や家族の健康に身近な分野だと思えます。興味を持ってもらえるとうれしいです。そうなるような授業の提供や実習での関わりができるよう頑張ります。どうぞ、よろしくお願ひします。



後藤先生

四月三日より、実習指導教員として赴任して参りました。本校卒業後は、トヨタ記念病院の整形外科病棟、混合外科病棟に勤めていました。

整形外科・混合外科病棟では、治療を受け回復していく患者様や癌治療を受けられる患者様への看護について学びました。術後の疼痛や思い通りに日常生活を送ることが出来ず葛藤されている患者様もおり、新人の頃は特にコミュニケーションセッションなどで戸惑うことが多くありました。しかし退院時の「ありがとう」の一言が本当に嬉し

かったことを覚えています。

学校生活は大変なことも多いですが、今までの経験を活かし、看護の楽しさを皆さんに伝えていければと思います。現在、私も日々勉強しながら演習・実習に取り組んでいます。皆さんと一緒に成長できるように頑張りたいと思ひますので、よろしくお願ひします。



